

## イノベーション創発人材育成システム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：山沢 清人）

## プロジェクトの概要

総合工学系研究科内に「イノベーション創発人材育成センター」を設置し、ビジネスマインドを有する幅広い視野を持った博士を養成する。養成の対象は博士課程学生及びポスドクとし、公募により選抜する。公募は信州大学のみならず、信州産学官連携機構を通じた県内の連携大学や公的研究機関、あるいは近隣県大学・繊維学系大学などを対象に行う。養成プログラムとしては、イノベーション基礎教育、共同研究討論会、企業等への3ヶ月以上の長期インターンシップを行う。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	a	s	s	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

## (2) 評価コメント

構築したプログラムの下、4つのエリアに分散した拠点というハンディキャップがありながら、大学の特徴を活かした地方企業との連携とともに全国的にも広く企業を開拓し、博士人材の養成、キャリア支援を着実に実施したことは高く評価できる。長期取組の実施においては、企業の意見、DC/PDの意見をヒアリングし、企業と博士人材とのマッチングを重視したことで双方が満足する成果をあげた。実践プログラムは地域大学のキャリアプランのベンチマークとなると期待できる。費用対効果の高いプログラム内容であるとともに、多くの企業からの長期取組経費支援も進んでおり、今後の継続展開が期待できる。ロケーションの克服施策の更なる高度化、並びに、博士人材の立場に立った施策展開を期待する。

・**目標達成度**：事業実施体制の構築と運用、全般的なプログラムの達成度は高く、特に、企業との連携について意欲的に取り組んだことは評価できる。養成者数が目標数を下回ったことについて、その要因を外的要因に帰することなく対策を講じるべきであった。ただし、養成修了者の企業での評価が高く、長期取組受け入れ企業の60%近くが被養成者を採用した実績、さらに、中間評価のコメントを受けてライフサイエンス系研究者の養成を増やした点は評価できる。

・**イノベーション人材養成システム改革状況**：4つのキャンパスというロケーションのハンディキャップを乗り越え、企業の意見を取り入れた博士人材養成への構造改革が進められており、高く評価できる。本プログラムの成果をリーディング大学院プログラムなどにつなげ、また、平成

28年度の大学院一貫体制に向けて改革準備を進めていることも評価できる。予算措置についても具体的である。事業の発展に重要なネットワークを構築しており、運営スタッフを計画的に更新することでその組織的な継承を期待する。

・**実践プログラムの開発・運用状況**：地方企業20社近くが実際のプログラム運営に関与し、企業側の意見をよく取り入れた堅実な取組のできるプログラムを開発している。長期取組前に博士人材に対する講義及びヒアリングを行う一方、長期取組先に対するきめ細かな調査や意見聴取をし、双方の理解を得た無理のない長期取組を実施している。その努力の結果として、およそ30社からインターンシップ経費の一部負担の了承を得たことは高く評価できる。博士人材の声や将来目標などについても継続して情報収集し、プログラム強化を推し進めることを期待する。

・**実施体制**：関連内規の改正と分散キャンパスに対応したスタッフ配置による全学的プログラムの実施体制を構築したことは評価できる。評価委員会のメンバーにも工夫がなされ、また、リーディング大学院プログラム、教育改革につなげた体制を構築し、組織としての継続性も高いと評価できる。特任教員が企業の意見をよく聴いて熱意をもって実施し、スタッフの意識も統一されていることも評価できる。

・**今後の進め方**：継続を前提としてコンパクトな予算で実施し、インターンシップの企業負担での実施等も含め継続へとつなげていることや、5年間に推進した事業内容のカリキュラム化を進め、今後の継続に向けてMC/DCの教育、キャリア支援の一体化の取組を実施していることは高く評価する。ただし、MC/DCの一体化によりDC/PDへの取組が不十分にならないことを望む。今後はグローバル化人材の重要性に対応した博士人材養成計画を、医学部を含めた全学への展開することを期待する。